

# The 11th JUACEP Seminar

第11回 名古屋大学日米協働教育プログラムセミナー

## マイクロ・ナノエンジニアリング： 21世紀の問題解決型研究のための基盤技術

講師： 倉林活夫 教授

ミシガン大学工学部 機械工学科・  
電気工学コンピュータサイエンス科

略歴：1992年に東京大学工学部精密工学科を卒業後、1998年に米国スタンフォード大学材料科学部において博士号を取得。その後スタンフォード大学工学部助手を経て、現職。現在の研究テーマは、細胞バイオセンシング、オプト・フルイディクス、マイクロ・ガスクロマトグラフィー技術、そして生体分子MEMSデバイスに渡る。Semiconductor Research Corporation最優秀論文賞(1998年)、VLSI Multilevel Interconnection国際学会論文賞(1998年)、全米科学財団(NSF)研究奨励賞(2001年)、ミシガン大学Robert Caddell記念賞(2004年)、Pi Tau Sigma Outstanding Professor Award (2007年)を受賞。

日時 2012年12月11日(火) 15:00~16:30

場所 ES023 (ES館)

概要：マイクロ・ナノエンジニアリングの研究は、従来の工学の専門分野を超えた知識と技術の統合を必要とする。このことは、米国で近年ますます盛んに成りつつある異なる学部や組織間での共同研究(collaboration)を促している。本セミナーでは、ミシガン大学・倉林研究室におけるマイクロ・ナノエンジニアリングに関する研究活動のうち、マイクロ・ナノ加工技術の融合による特に微小デバイス中における伝熱・物質移動現象の計測技術や分析化学技術の開発について紹介する。また、大学技術の産業への移転およびベンチャー企業発足におけるプロセスなどについて、米国の大学における戦略的研究事情を踏まえて紹介する。

**Inquiry: JUACEP Office, Mech. Sci. Eng. (Ext. 2799)**